

《茅野市》 茅野市ボランティア・市民活動センター

〔センターの基本事項〕

所在地	〒391-0012 茅野市塚原2-5-45 茅野市総合福祉センター内			
電話 FAX	0266-73-4431	0266-73-8030		
電子メール	support@sharara.or.jp			
HPアドレス	http://www.sharara.or.jp/			
職員数	正規	2名	嘱託	—
	臨時	2名	その他	1名
開所日と時間	平日 8:30～17:30 (会場使用は21:00まで) 土日祝を除く			
情報誌	茅野市ボランティア・市民活動センター情報紙『たまご』 毎月発行 (奇数月：A4判1P、偶数月：A4判4P)			
来所者数	年間 約 1,800名			

茅野市社会福祉協議会
イメージキャラクター 「シャララ」
心のこもった、みんなの手で支え合う地域づくりを目指します。
2つの手は、さしのべる手、さしだす手を意味しています。



シャララのシャは、社協のシャ。
幸せそうなお歌のラララ…を合わせてシャララにしました。

〔センターの運営方針・指針等〕

今年度のテーマを『希望は、市民《わたくしたち》がつくる』として、地区および行政区にもつながる『福祉共育(教育)』や『市民(住民)参加による豊かな支えあいのできる地域づくり』を目指し、活動や事業を推進・支援、企画・実施していきます。
(平成22年度 事業計画より)

〔センターの拠点整備〕

活動場所の提供	<input type="radio"/>	無料、対象者：登録団体
フリースペースの設置	<input type="radio"/>	無料、対象者：登録団体 (社協事務局の一部)
資機材等の貸出	<input type="radio"/>	ガス釜、アンプ等 無料、対象者：登録団体
福祉体験器具等の貸出	<input type="radio"/>	車いす、点字器、点字図書等 無料、対象者：個人、学校等
登録グループの専用ポストの設置	—	
情報掲示板・チラシ提供スペースの設置	<input type="radio"/>	

〔ボランティアセンター運営委員会〕

組織の有無	有	規約	有
名称	茅野市ボランティア・市民活動センター運営委員会		
委員構成	学識経験者並びにボランティア団体、非営利団体、企業関係団体、市民団体及び関係行政機関等に所属する者のうちから茅野市社会福祉協議会長が委嘱する。 平成22年10月1日現在 委員数：13名		
事業への関わり	事業計画の内容および予算について審議、行政の地域福祉計画(第2次)への提言 ほか		
工夫点	運営委員会開催前に、正副委員長と事務局とで三役会を開催し、協議事項の内容と方向性について確認をする。		
課題点	本年度で任期満了を迎える。委員の出席に偏りが見られる。「強化プラン」を策定はしているが、具体的な達成課題を明記しているわけではないので、運営委員会としても計画の進行管理することは困難である。		

〔ボランティア連絡協議会〕

組織の有無	有	規約	有
名称	茅野市ボランティア連絡協議会		
協議会構成	平成8年10月設立 この会は、会の目的に賛同する次のものをもって組織する。①ボランティアグループ、②ボランティア活動をする個人、③ボランティア活動にかかわりのある団体・企業・機関・施設《規約の一部抜粋》 理事 11名 所属グループ数 46名		
工夫点	職員が事務局として、理事会に参加している。センターの事業を実施するにあたり、共催や協力という形で関わっている。		
課題点	センター登録のボランティアグループ数に対し、ボランティア連絡協議会の所属ボランティア数が少なく(35%)、加入を呼び掛けているところである。独自事業が一つだけであり、活動のほとんどがセンター事業に共催や協力という形式である。		

〔財源〕

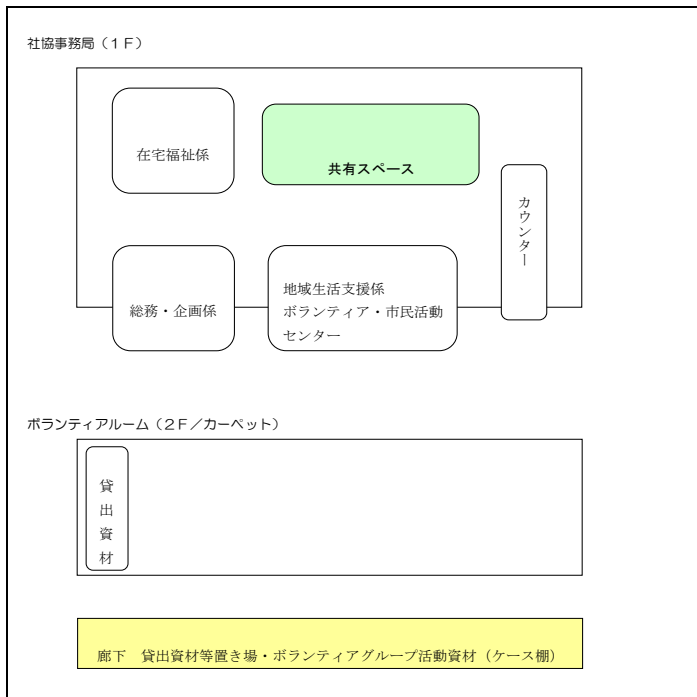
人件費	独自財源	—
	共同募金	—
	委託料・補助金	○ 行政からの補助金
	民間助成金	—
	その他	—

事業費	独自財源	○	社協会費 (ボランティア活動助成積立金)
	共同募金	—	
	委託料・補助金	○	地域福祉推進課 福祉業務係
	民間助成金	—	
	その他	—	

〔事業計画・センター運営等について〕

○事業計画について 毎年度の事業計画について、どのように計画を立案していますか？	当部署・担当職員間で事業計画を立案している。
○センターにおける中長期計画について 独自の中期計画・アクションプラン等を作成していますか？	名称：茅野市ボランティア・市民活動センター 強化プラン 内容：【センターの役割・機能】①市民力ある人づくり（点）②市民力を高め、深め、つなげ、広める（線・面・高さ）③より豊かであたたかな“地域”“まち”づくり（拡充・彩り）
○アドバイザー等について センターの運営や事業実施に関して、アドバイザー等の助言者はいますか？	日本福祉大学 准教授 原田正樹 内容：茅野市社会福祉協議会 地域福祉アドバイザー
○社協VC以外の中間支援機関について 社協が運営するVCとは別に、他団体が運営する中間支援機関が地域内にありますか？	—
○連携するNPOや関係機関について VCの事業・運営において連携・協働しているNPOや関係機関等がありますか？	
連携・協働先	連携・協働内容
ねこじゃらし茅野	外国籍居住者への行政パンフレットの翻訳版の配布を行う。
—	—
—	—
○センターの強みと弱みについて	
<p>《強み》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ボランティア活動助成金」の交付が、ボランティア団体の活動に定着している。 ・各地区、集落には「いきいきサロン」の活動が定着しつつある。 	<p>《弱み》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区ボランティアおよび地区ボランティアコーディネーターに関する支援体制について、現在、模索中であること。 ・個人ボランティアの登録はあるが、個別支援に協力いただけるまでの実践には至っていない。

○VC見取り図



<p>○他市町村社協ボランティアセンターについて</p> <p>センター運営や事業実施に関して、他市町村社協VCに聞いてみたいことや知りたいことなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉教育の実践におけるプログラム作成から実践、振り返りまで過程をどのように進めているか知りたい。 ・また、福祉教育における外部講師について、紹介していただける方がいたら教えていただきたい
--

ボランティアセンターの重点事業について

事業名	福祉教育・ボランティア学習研修会 / 出前福祉教室
目的	参加者全員が福祉教育・ボランティア学習の意義を共有するとともに、特に校長先生はじめ多くの先生方、地域で子どもを育む住民の方々に、協働実践の大切さや参加体験型学習の楽しさを理解していただき、今後の実践につなげていくために開催。
開催頻度	年1回（開催準備に伴う視察等 2回／愛知県東浦町片葩小学校）
内容	◎福祉 21 茅野福祉教育・学習部会報告 ◎シンポジウム テーマ『自立と共生をめざした学びの創造 ～「いのちのきずな」づくりをめざした「ふくし教育」を核として～』
対象者	小・中・高等学校の先生、社協が実施する出前福祉教室において講師を依頼させていただいている方、地域のボランティア活動推進者、民生児童委員、主任児童委員、福祉施設職員、社会福祉協議会職員、地域の福祉教育に関心のある方など
企画のポイント 事業成果	今年度は教育委員会に働きかけ、教職員の研修の一つとして参加をしてもらうため、夏休み期間中に初めて開催をした。 当市社協で実施している「出前福祉教室」のプログラム内容を改善するきっかけとなった。
参加者の声や その後の動き など	「共に生きる」を中心に据えた学校づくりの取り組みに学ぶことがたくさんありました。社協との連携の中で、「ふだんのくらしのしあわせ」を考えながら具体的な活動を通して、「自と他」の関わりに目を向け、「生命」について考えていく方向、大変参考になりました。

事業の様子

「福祉教育・ボランティア学習研究集会」の様子



「出前福祉教室」の様子

